

令和5年度 村上市立神林中学校 学校経営方針

校長 横山 雅史

〇 はじめに

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも教育活動を行おうと計画を進めてきた。しかし、8月豪雨災害と新型コロナウイルス第8波の影響で変更や延期せざるを得ない状況もあった。だが、どんな状況においても、生徒のためにその時に最大限できることを考え全職員で取り組んできた。また、PTA役員をはじめ、保護者や家族の皆様や、学校運営協議会等の地域の方々のご理解やご協力もあり、生徒の成長を支えていただき、神林中学校の良さをさらに伸ばすことができた。令和3年度より取り組んできた神林中学校独自の防災教育についても、地域との協力で定着しつつある。実際に災害時に命を守る行動ができた事は教育の成果といえる。

神林中学校の良さは、生徒が素直で優しく思いやりがあり、規律を守れるところである。体育祭や合唱コンクール等の学校行事では、一つの目標に向かい、他と協力してやり遂げる力がある。さらに、家庭や地域も学校や生徒を大切に思い、大変協力的である。

課題は、自己肯定感がやや低く、失敗をおそれないで難しいことに挑戦する力がやや弱いところと、自分の考えとは異なる考えを受け止め、お互いにさらに発展させる力が少し足りないところである。また、令和4年度は地域連携が少しできはじめたところであるので、更に進めていきたい。

そこで、令和5年度は、神林中学校の良さをさらに伸ばし、課題を解決するため、工夫して教育活動を進め、家庭や地域の協力を得ながら、ともに生徒を育成していく。

1 教育目標

学ぶ心 思う心 挑む心

2 教育活動スローガン

善悪の眼 本気の耳 挨拶の声

- ・正しい判断力を身に付け、公正な立場から他に働き掛ける生徒
- ・相手の話を真剣に聞き、主体的に粘り強く取り組む生徒
- ・明るくさわやかな声が響き合い、温かな人間関係でつながる生徒

3 学校経営方針

①経営の基底

生徒ファースト

主役は生徒。全ての考えや行動は生徒のためにあるかどうか。学校で学ぶ意義は何か。同じ条件で、より効果を上げるためにはどうすれば良いのか。を常に考える。

②目指す学校像

一人一人が「自分らしさ」を発揮し、幸せに暮らせる学校

「自分らしさ」とは一人一人が持っている個性であり、得意なことや苦手なこと、やりたいことや伸ばしたいこと等を含めたその人の全てである。

生徒も教職員も「自分らしさ」を大切にしてその良さを伸ばし、また、お互いの個性を認め、尊重し、共に進んで行こうとする学校を目指す。

③目指す生徒像

自ら学び共に学んで、考えを深める生徒

進んで他とかかわり、相手を思いやる生徒

目標に挑んで心身を鍛える、健康でたくましい生徒

自分も他も大切に思い、関わり合いながら、自分の考えをしっかりとち行動できる生徒を目指す。また、少しの困難にも負けずに挑戦し、努力を続けていく生徒を目指す。

④目指す教師像

人を大切にし、授業を大切にし、チームで動く教師

生徒、保護者に寄り添い、地域の方や来校者等に丁寧に対応し、同僚を尊重してお互いを高め合い、常に自分の授業力を高めようと努力を重ね、組織で動くことができる教師を目指す。

4 令和5年度 育てたい資質・能力

自分の考えを表現し、他の考えを受け止める力

多様性やお互いの個性を認め、積極的に関わる力

失敗をおそれずに、難しいことにも挑戦する力

5 今年度の重点

(1) 学ぶ心（知）

①考え表現する授業

- ・村上市「授業づくりハンドブック」を活用した考え表現する授業を実践し、授業改善を目的とした教員同士の授業参観を実施する。
- ・ICT（1人1台のタブレット端末）を活用した授業を実践する。
- ・UDLを意識した学習環境づくりを行う。

②自主的・主体的に学ぶ力の育成

- ・プランニングタイムで学習計画を立て、平日1日60分以上の家庭学習の習慣化を図る。
- ・読書活動を推進し、読解力、言語力の向上を目指す。

③特別支援教育の充実

- ・一人一人に応じたきめ細かな指導を進める。
- ・特別支援教育に関する研修を深めて教員の専門性の向上を図る。

(2) 思う心（徳）

①コミュニケーション能力の育成

- ・総合的な学習の時間を中心に、各教科の授業の中で関わり合う場面を設定し実践する。
- ・グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを効果的に活用し、豊かな人間関係づくりを目指す。

②自己肯定感の向上

- ・学級活動、生徒会活動、学校行事を通し、成功体験を積む機会を多く設定し、お互いを認め合い高め合う集団づくりを目指す。
- ・地域貢献活動や地域の行事等に参加し、社会に貢献する体験を積む。

③人権教育、同和教育の充実

- ・人権尊重の視点に立った学級経営を行う。
- ・小中学校9年間を見通した一貫性のあるカリキュラムに従い、協働して実践する。
- ・「かかわる同和教育」の実践を再確認し、授業実践を深め、共有する。

(3) 挑む心（体・徳）

①たくましく強い心の育成

- ・学級や学年活動、部活動を通して、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」態度を育てる。
- ・特別の教科道徳の授業や体験的活動を通し、克己心や努力を続ける心を育てる。

②体力の向上

- 保健体育の授業等を通して、各自の体力の向上を目指す。
- 学校行事や部活動の取組等で、学校全体として運動に取り組む機会を増やす。

③自己管理能力の育成

- 養護教諭や生徒会等と連携し、望ましい生活習慣（食事、運動、メディアコントロール、睡眠、感染症予防）について意識啓発していく。
- メディアに関するルール作りや時間の管理等を保護者、家庭と連携して取り組む。

（４）教育環境の整備

①地域・家庭との連携

- 学校運営協議会やPTAと連携し協力して、学校行事等の実施運営を行う。
- 融合型部活動運営協議会と連携し、休日の部活動の在り方や運営について進めていく。
- 学校だよりやホームページ、ブログにより、積極的に情報を発信していく。
- 地域の人材を活かし、様々な形で学校教育に参加してもらう。

②小中連携

- 神林中学校区小中連携推進事業（学力向上部、小中連携部、人権教育、同和教育部）を通し、小学校と連携し9年間を見通した教育活動を行う。

③教職員の資質能力の向上

- 職員研修、学校評価、生徒指導、学習指導、特別支援教育、人権教育、同和教育等の校内研修を計画的に確実に実行する。
- 非違行為根絶研修を行い、コンプライアンスの徹底に努める。
- 生徒指導等の情報を全職員で共有し、全員が同じ歩調で取り組む。
- 働き方改革を推進し、心と身体の健康維持に努める。
（月1日を「自分の日」とし、年休を取る。）